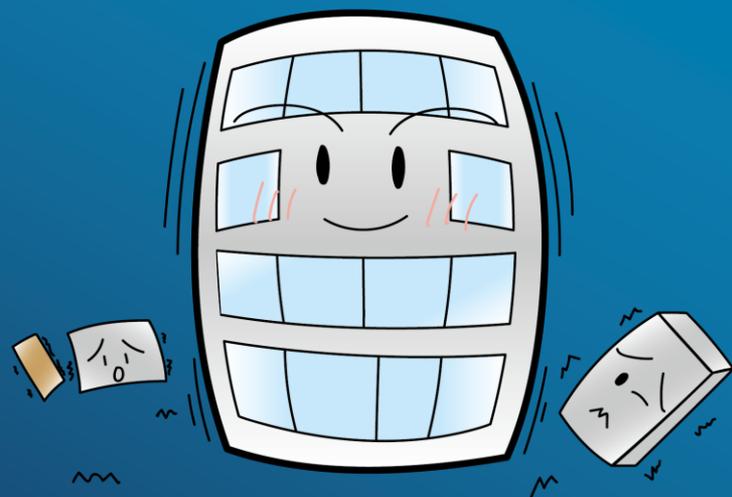


低コスト&ノーメンテで実現！

「耐震＋制振」で
建物・居住者を守る



「耐震＋制振」で建物や居住者の安心・安全を確保

耐震だけでは守られない建物の損傷や居住者の安全性を
ヤクモの制振技術(TMD)を組み合わせることで実現します！

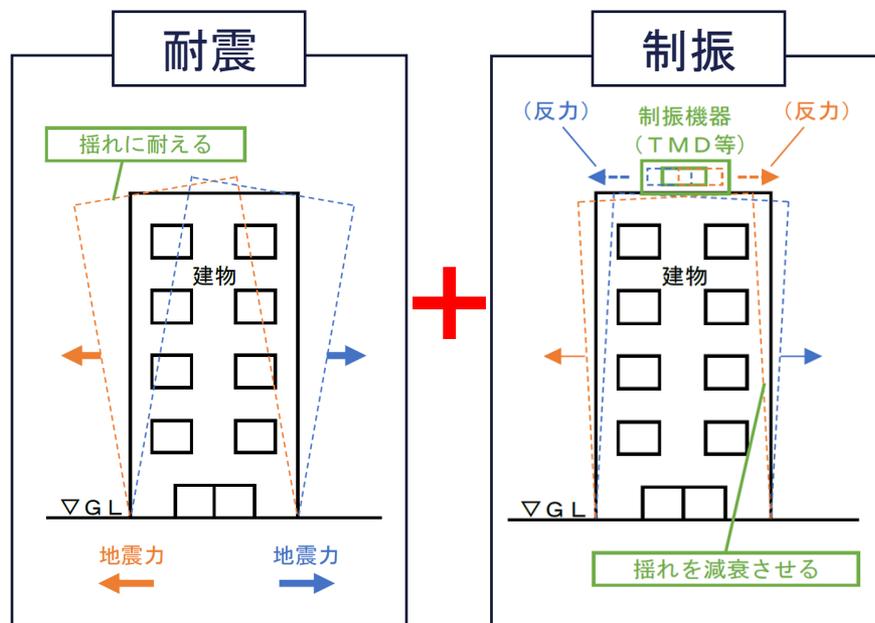
低コスト&短工期&ノーメンテで実現！



大地震を受けても長く使用できる建物



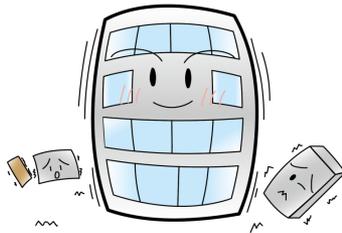
室内被害を抑えて居住者の安全確保



将来起こるかもしれないストーリー

耐震構造の建物でも大地震によって多くの問題が発生します

大地震が起きても耐震構造の建物だから安心安全！
とっていたけど…



室内では家具やオフィス機器の転倒・転落、
天井などの落下によって人的被害が多発！



1	2
3	4

地震によって散らかった室内の片付けや整理、
精密機器の故障などで事業再開に遅れが…

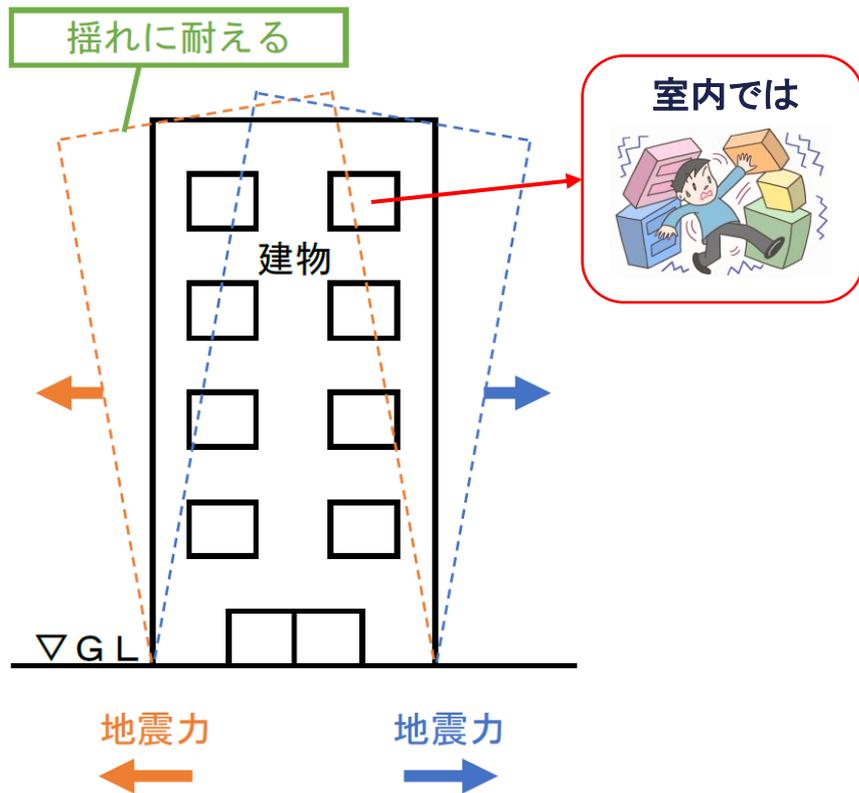


また地震が起きたときも同様の被害が起こる
不安や恐怖感で集中して仕事ができない…



耐震だけでは安心・安全とは言えない

命を守る「安全性」はありますが、「安心感」では難があります。



耐震はその名の通り「揺れに耐える」構造です。大地震でも建物を倒壊から守ります。

現在の建築基準法では震度7程度の大地震でも倒壊しない設計にするように定められています。

しかし、デメリットとして「地震の揺れが直接伝わる」という問題があります。

そのため、

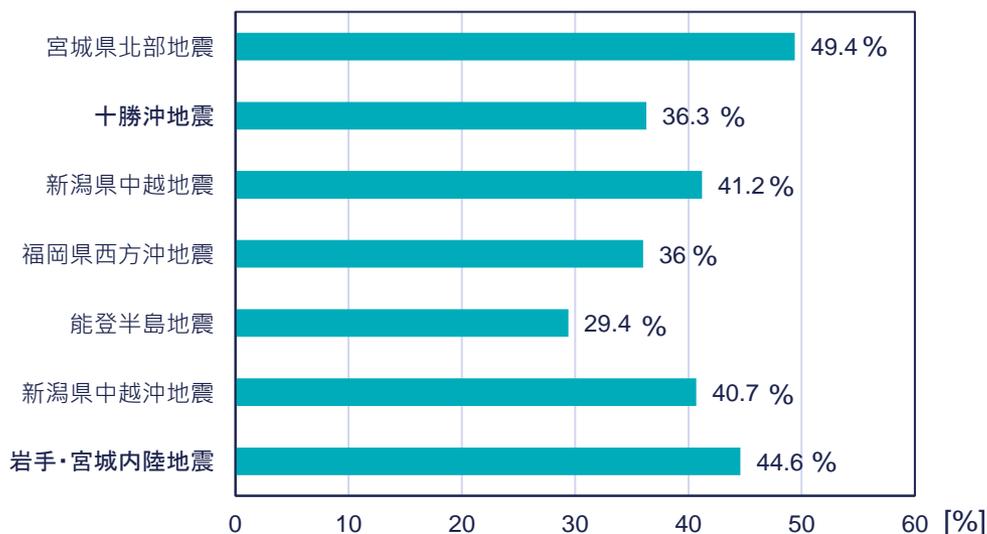
- ・室内が激しく揺れる⇒室内被害
- ・耐久性の悪化⇒再度の地震で倒壊のリスク

命を守る「安全性」はありますが、室内被害や地震後の建物の損傷などといった「安心感」では難があります。

大地震時における負傷者の実態

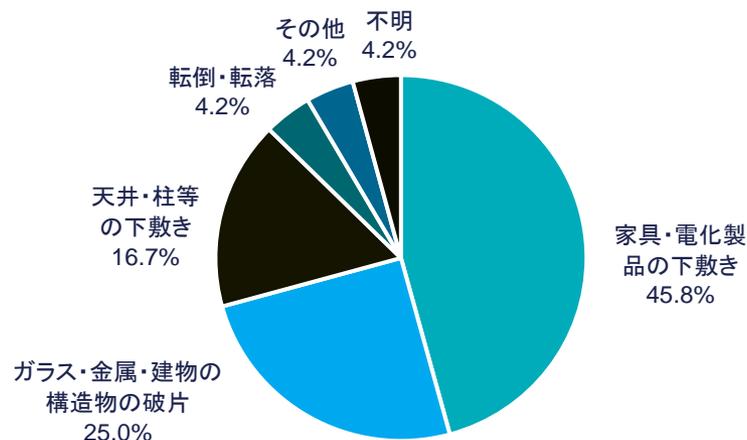
近年の地震でけがをした原因の約30～50%の人が家具類の転倒・落下・移動によるもの。阪神大震災や東日本大震災では建物の倒壊だけでなく、家具の転倒や天井の落下などで多くの人的被害が発生しました。室内の安全性の確保が重要になります。

近年発生した地震における怪我で家具類の転倒・落下・移動が原因の割合



出展：東京消防庁、平成27年度「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック-室内の地震対策-」より

阪神大震災の原因別死傷者数の内訳



出展：阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査委員会
阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査報告書より

続きが気になる方は 会員登録(無料)をお願いいたします。

資料はプレミアム会員登録後(無料)に
マイページよりダウンロードいただけます。
この他にも様々な資料がございますので、
ぜひこの機会にご登録下さい！

会員登録はこちら



HP : <https://www.yacmo.co.jp/>

✉ yacmo-ma@yacmo.co.jp

 ヤクモ株式会社